

今期のアーティスト 中田好運
連載 今月の三枚目(古田秀和)

レコード 軽術

4.₁

No.25

APRIL
2000

特設記事 コテン・スペシャル

T H E R E C O R D
K E I J U T S U

とじ込み

Recycle



今日の資源保護



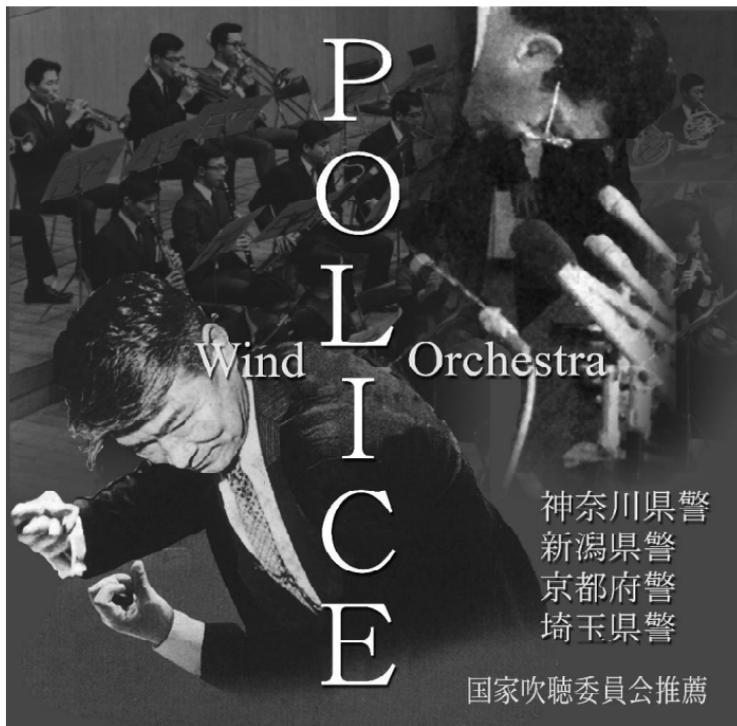
隠匿された名演・ついに公開

伝統。

仲間意識。

団結。

強固なアンサンブルのもとほこれだ。



ブラスの祭典

噂はされていたものの、一般には知らされなかつた警察音楽隊の名演を一挙公開。

いま、
みやび
雅の響きが
よみがえる。

ダンパー用に用いた古代の地層
から掘り出した石が かもし出す
悠久の音色。

私たちが見失ったものが聞こえ
てくる ——



LP & SPレコードプレーヤ新発売



機能は謎？使ってわかる
高機能リモコンつき

明日香音響（株）

Artist
of
the
Season

輝くキャリアの人気バリトン
中田好運氏にきく

中田好運氏は一九六八年
オペラ工種試験に合格、今
日に至るまで全国各地のオ
ペラ・ハウスで主役級の役
を務めてきた、折り紙付き
のバリトン歌手である。こ
のたび新潟で行われるプッ
チーニの歌劇「トスカ」の公
演で忙しい中、インタ
ビューに答えていただいた。



さつそくですが、中田さんがオペラに出演されるときはいつも主役クラスと決まっているようなものですが、ずっとそうだったのですか。

中田 そうさ、オペラ工種試験は主役を育てるための試験なんだよ。これに合格すれば、あとはよほどのことがない限り主役級の仕事に事欠かない。地方の人材不足も我々のおかげで救われている。日本のオペラの水準を保つためによい制度だと思っね。

最近工種試験合格者以外の方の活躍も注目されていますが。

中田 そこそこ実力があっても評論家がほめるほどになるのは大変。君、知っているかね、オペラ評論公正委員会というのがあがるが、あれは工種試験を通った人の外郭団体みたいなもので、身内を差し置いて彼らをほめるといふことはしない。世の中うまくできているん

だよ。

今度の「トスカ」では警視總監のスカルピア役ですね。悲劇的な結末を迎えますが、役作りの苦労などありましたら聞かせていただきたいのですが。

中田 いやー、あの警視總監は運が悪かったというに尽きるね。赴任地で歌姫を現地妻にして楽しめるどころ、なんと不手際な、といいたい。俺だったらあんなことはしないね。ステージの上のことはともかく、新潟のスタッフの連中はよくやってくれている。今度もよい公演になりそうだ。

終わったあとのお楽しみは？

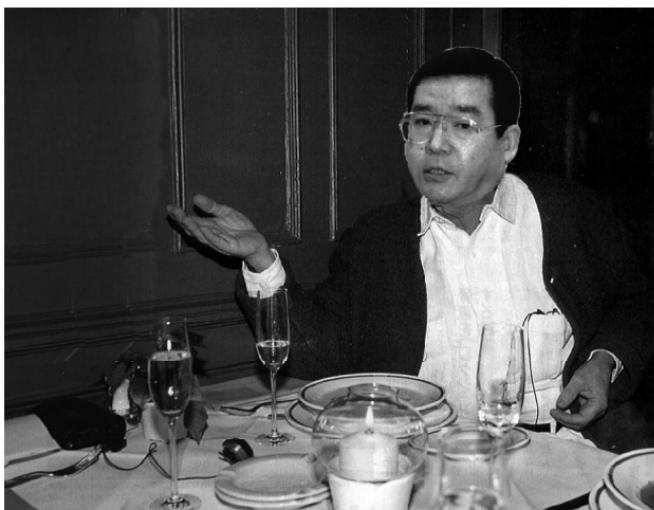
中田 新潟の連中とはよく麻雀をするんだ。こんどは雪見酒もうまそうだ。白鳥が来ていそうで、見物につれていってもらうことになつている。

新潟のスタッフの方もいろいろおつきあい

が大変なんですな。

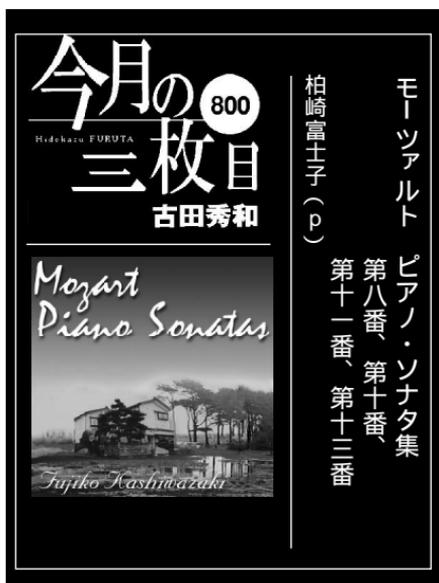
中田 いいんだよ、それも彼らの楽しみさ。いいか、オケの指揮をしている小林君（編集部注・実行委員会本部長の小林幸尽氏）もI種試験合格組だ。地方にくすぶっていていい人材じゃない。いまは中央に出る機会が回ってくるのを待っているのだ。レベルの低い連中相手では何かとストレスがたまるだろうから、ときには憂さ晴らしをしてやらんと。

噂には聞いていたが、この人ほどあの狡猾な警視総監スカルピアにぴったりの人はいないのであると思った次第。したたかに生きる人は考えることが違つと、話を聞きながら圧倒されたりため息が出たりのインタビュースタッフだ。世の中にはすごいひとがいるものだ。



書齋の窓から近くの公園のコブシの花がふくらんできたのが見える。暖かさを増した風に枝がそよぐ。それに合わせるかのように、木の近くに集まって遊んでいるのだろ、子供たちのおしゃべり、笑い声がひととき大きくなる。芽吹きと幼い生命とが作り出す春への鼓動だ。

モーツァルト
ピアノ・ソナタ集
第八番、第十番、
第十一番、第十三番
柏崎富士子（p）



それを見てみると、私の生まれ故郷にあった、大きなハクモクレンの樹と小川の情景が幾度となく浮かんでくる。遊んでいる私を背中から暖めていた、午後の太陽の輝き。

そして、もう一つ浮かんでくるのは、モーツァルトの「トルコ行進曲」。

それはハクモクレンのもとで遊んだあの日から十余年あとのことだった。たまたまFM放送から聞こえてきた響きのなんとはかなく、寂しげであったことか。そのとき私は十代の終わり、あることで苦しんでいた——それはいまとなつては青春の通過儀礼と片づけてしまえるようなことだったが——その最中に、そのピアノ・ソナタは初めて聴く音楽のように聞こえたものだった。傾きかけた初春の太陽をぼんやりと見ているときのことだった。

モーツァルトの音楽に、快活さだとか、純真さだとか、子供のかわいさと共通した魅力をまず見いだす。まだオクターブに届かないような小さな手の子の弾くモーツァルトはまさしくそれかもしれない。

しかし、モーツァルトの音楽の奥深さは——本誌の読者には今更いうまでもないことだが——表向き明快で優しい譜面でもその裏に人生の機微にかかわるような深い感情が顔を出すところにある。

子供のモーツァルトから大人のモーツァルトへの理解はどのように進むのだろうか。いろいろな名曲を聴いたり、弾いたりするようになるからか、それとも、音楽とは関係なしに、心身の成長がそうさせるのだろうか。

今回取り上げたCDでモーツァルトを弾いている柏崎富士子は、幼時から将来が期待さ

れる才能を持っていたにもかかわらず、十歳のとき風邪薬が原因で聴覚を失った。ところが、一九歳のとき奇跡的に聴覚を取り戻し、再びピアノに向かった人だ。

九年二ヶ月もの無音の生活。その間子供から大人への心身の変化があり、本来なら音楽の嗜好はいろいろ変化したろう。演奏していたらその表現にも変化が当然現れる。

カムバック後の彼女は、人生でもっとも大切な時間ともいえる十歳から一九歳までの音楽的ブランクを乗り越え、立派なモーツァルトを弾いていることをまず賞賛したい。

一方で、ブランクがあつたゆえにか、というのは本人には酷だけれど、今なお快活で純真、素直なモーツァルトが息づいていることも特筆したい。経験と知識だけでは説明のつかない音楽の不思議がここにある。

新 譜 月 評

apr 2000

4.1

4月新譜月評

交響曲 宇野咆吼

モーツァルト
交響曲第40番
高木俊巡指揮

器楽曲 武田迷倫

声楽曲 北道冬帰

ベートーヴェン
ピアノ・ソナタ《熱情》
梯子高行(p)

録音評 神崎自公

シェーンベルク
《グレの歌》
孫悪義指揮

(評外)

プロコフィエフ
《ピーターと狼》
小沢イチロー指揮
野中潜(語り)

新譜月評

交響曲

宇野咆吼

ストラ
モーツァルト 交響曲四 番ト短調K五五
高木逡巡指揮 ジャパン・センチュリー・オーケ



ジャパン・センチュリー・オーケストラは、茨城県にある団体で、このCDは初めての録音になる。このところ地方のオーケストラが注目されている。クラシック音楽の普及とレベルアップには好ましい流れといえよう。

そういった意味でジャパン・センチュリー・オーケストラの初CDは期待が大きかったが、見事裏切られた。

モーツァルトの清澄な響きを生み出すのに欠かせないアンサンブルの精緻さが欠ける。アマチュア・オーケストラでも難なくこなすところでさえ、問題が散見される。合わせる意欲がないのは技術以前の問題だ。

音程も悪い。終楽章の二二九小節目、ヴィオラとチェロがつぎのような音形を奏でるが、



「このはじめの小節、このように聞こえる。



これでは和声の意味も異なってくるのではないが。念のため、評者はオーケストラの関係者を通じ、この個所のパート譜はどうなっているかを確かめてみた。すると驚くなかれ、この個所はチェロパートのポジションの移動を少なくするために改変して弾いているという。いつからは定かではないが、慣例として定着しているという。とんだ合理化が行われていたものだ。

「録音評」録音にあたっては騒音を防ぐため建物の周囲五〇〇メートル以内を通行止めにしたという。国道も列車も通っているこの地域では一大事だったろう。そうまでしなければならぬほどの設備だったとは情けない。そこまで気を使ったにもかかわらず、なおノイズが入る。上空を飛ぶヘリコプターのようだ。

そのことを知った上でもう一度聴き直すと、そのつぎの小節もおかしい。ヴィオラは正しく弾いているので一聴した程度では気が付かないが、チェロは改変して弾いている。結局ここで弾かれているのはつぎのような譜面だ。

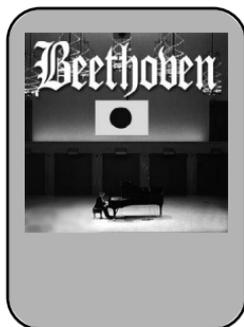


これは慣例として定着しているものではなく、チェロパートの連中が現場の判断でやったものという。指揮者が気が付かなかったとすればひどい耳だし、黙認していたとすれば指導者の資格なしだ。このようなオーケストラの存在価値はない。

新譜 月評 器楽曲

武田迷倫

ベートーヴェン ピアノソナタへ短調《熱情》 梯子高行 (p)



推薦 梯子高行のデビュー盤である。い

きなり大曲で登場とあって背伸びしているかに見えるがどうしてどうして、若さあふれるダイナミックな表現と精緻な曲の読みが両立した好演である。

彼は某有名音大の付属高校を中退、翌年にはヨーロッパのコンクールのいくつかに

入賞したというから、実力のほどが知られる。

音大付属高校中退の理由が面白い。フェルマータ記号が付いた音符は、任意の長さに延ばしてよいことを示すが、当時の校長は長さを細かく規定した。つまり、音を延ばしている間も拍を数え、規定通りで終えるようにと通達を出した。

当然、教師たちは自由な表現が妨げられると反対したが、校長は「これは決して強制的なものではない」と押し通す。強制でないならわざわざ通達を出す必要もない、撤回すればよいものと、教師達は迫ったが、

校長は「そんなにいうと自殺してやるぞ」と開き直り、あれよあれよという間に制度化されてしまった。制度となった以上、その通りに弾かない生徒は試験によい点が取れず、フェルマータは皆同じ長さで弾くようになる。

彼がそのような画一的権威の押しつけをする学校から逃れ、のびのびと活躍できる

場を選んだのは賢明であった。

今回のCDに収められた熱情ソナタでは、一六小節目にフェルマータがある。雪崩のような下降音形のあと、最初の動機が再現するところであるが、絶妙なタイミングには息をのむ。冷静になって拍を数えながら聴き直したら彼が高校で教わったとされる長さより一・二一九倍長かった。

「録音評」音源が左右に広がり過ぎて、位置が安定しないときがある。ノイズがややある。これらがないければ優秀録音になったことだろう。録音スタッフの意思統一がなされなかったためではなからうか。

オペラ化決定！

ファースト・レディだからこそ描けた一九六〇年代のホワイト・ハウスの住人達の悲喜こもこも。

ヒラリー・クリントン著

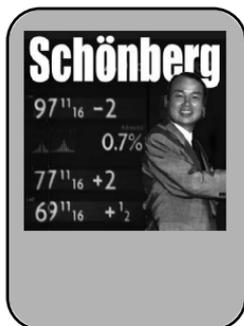


新譜 月評

声楽曲

北海道帰

団ほか
 シェーンベルク グレの歌 孫悪義指揮
 ジャパン・ネット・フィルハーモニック 兜町合唱



東京に、また新たな管弦楽団「ジャパン・ネット・フィルハーモニック（JNP）」が誕生した。インターネットでの楽曲配信と、今年末から本格的に始まる衛星デジタル放送の番組制作を狙いとした、異色の管弦楽団だ。提唱者は兜町合唱団でテノールを担当していた孫悪義。

狙いも異色なら、運営方法も異色。通常の管弦楽団なら、文化庁所管の財団法人として運営される。ところがこの新楽団、何と株式会社として運営され、店頭公開までしてしまったのだ。孫が強烈に提唱する、インターネット、デジタル衛星放送時代に対応した管弦楽団」というコンセプトが証券市場で受けた。一度も演奏会を開いていないこの楽団の株式公開時に、額面五〇〇円の株に何と一〇〇〇万円もの値が付き、連日のストップ高となっていた。おかげでJNP（実際には孫）は、一夜にして巨額

資金を抱える演奏団体となつたわけだ。その資金を元にして開催した「お披露目演奏会」を収録したのが、このCDである。

五人の独唱者と一人の語り手、三組総勢三〇〇人の混声合唱団、そして六管編成一五〇人の大管弦楽団。お披露目演奏会としては申し分ない選曲だ。しかも孫にしてみれば、巨額な資金の、ごく一部を使ったに過ぎない。もちろん、歌劇でもよかつたのだが、それでは提唱者の孫が主役になれない。孫は、あくまで自分が主役になりつつ、かつ「大派手」なこの曲で、自らの存在をアピールしたかつたのだ。

「録音評」 会場ノイズとアンサンブルの悪さをカバーしようとしている。そのため各楽器・声部の音像が完全にぼけている。終演後のプリーイングも、当然にカットされている。資料価値の全くない録音だ。

さて、演奏。お話にならない、散々な出来である。勝手に咆吼する独唱者と金管群、調子外れの木管群、ピッチの揃わない弦楽器群。語り手も、自分勝手に喋るだけ。個々の奏者が「自分が一番」と勝手に動き回る。まるで、ベンチャ企業の一マン経営者が集まった姿を見るようだ。当然アンサンブルは最悪。最後まで演奏が進行したのが不思議なくらいである。この演奏会の後、会場では猛烈なプリーイングが響き、市場でJNP株が暴落したのは当然の結末だろう。化けの皮がはがれてしまったJNP、前途は多難である。



CGが音楽を歌いだした

空を飛びたかった地下鉄（レスピーギ「ローマの松」より）

全国のiMakシアターで

地下鉄

2000

絶賛公開中

尽きない地域紛争

海外のお友達にCDを贈るときは気をつけましょう。

チャイコフスキーの序曲「1812年」はナポレオン軍の敗北を描いています。「ラ・マルセエーズ」がロシア民謡にかき消されるこのような音楽はフランスの人に贈ってはいけません。



最新技術を駆使したDVDオーディオなら大丈夫。地域コードにより原曲が新たな編曲に置き換わります。現在イギリス=アイルランド、ロシア=チェチェン、ボスニア=ヘルツェゴビナに対応。

チャイコフスキー原作
序曲 **1812年**

ユニバーサル版



ユニセフ
認定申請中

各国大使館後援

コテン・スパシ、パ

クラシック諸君!

いかがお過ごしでしょうか。相変わらず、ベートーヴェン顔して、クラシックに對峙しているんでありませんか。

善良な市民にメイワクをかけていないだろうか。窓を開け放ち、自慢のコンボのポリリウムをMAXにして、ご近所の騒聲をかっていないだろうか。

君にとって「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」が、他人にとって「もうよさんかイ、この調子者」ということになっていないだろうか。

だいたいクラシック・ファンは鼻持ちならん。鼻持ちならんオレが言ってるんだから間違いない。

クラシック好きがゆえにどれだけ多くの友人を失ったことか。

「シゲヒサさん。ご趣味は何ですか」「まあ、エーと、ベートーヴェンとかバッハとか、つまり」

「んまあー、クラシックですよ」

「いえ、シマクラチヨコとか、ザ・ビーナッツとかも聴きます」(データーが古い!)

ああ、おれの前から離れていった多くのうさぎちゃんたち。

クソ、クラシックめ!

そういう受難を経たので自然と面相が暗くなっちゃっやう。

お花見の宴席で、赤い顔しながら、ひとり肩間にシワを寄せて酒飲んでいるなんて想像できる?

クラシック諸君。クラシックを捨てて町に出よう。

どこからか「セレナータ・ノットルナ」が聞こえてきたら、耳をふさぎ、パチンコ屋に飛び込んで「軍艦マーチ」でお被いしよう。

ほとほとクラシックには困っている。「レコード軽術」なんてものが、飛ぶように読まれているなんてほんとうに困ったものだ。





いるのだから、クラシック・ファンなら知っていて当然と思
うのが自然だが、どうこい、そうではないのだ。

左のクラシック・ヒット
チャートを見てほしい。クラ
シック・ファンを自認する読者
へ質問だが、ここで一位・二位を
競っているフジ子・ヘミングと
川島成道を知っていたらどうか。
何しろ、CDがたくさん売れて

1	奇蹟のカンパネラ フジ子・ヘミング(p)	VICC60123
2	歌の翼に 川島成道(vn)	VICC60142
3	フィリップ・ジョルダノ フィリップ・ジョルダノ	WPCS10430
4	ニュー・イヤーズ・コンサート2000 ムーティ/ウィーン・フィル	TOCE55097
5	ザ・カデンツァ17 木村大(g)	SRCR2473
6	プラスの祭典 佐渡裕/シエナ・ウィンド・オーケストラ	WPCSI0310
7	classical ever! one オムニバス	TOCP65301
8	ショパン：ピアノ協奏曲第1・2番 ツィマーマン(p)/ポーランド祝祭管	POCG10245
9	ヨーヨー・マ ベスト・アルバム ヨーヨー・マ(vc)	SRCR2294
10	ヨーヨー・マ ブレイズ・ピアソラ ヨーヨー・マ(vc)	SRCR1954

結論をいうと、年季の入ったクラシック通を自認している
人は知らない。見栄を張りたいなら知らないといっておいた
方がいい。要するに、二人のことを知っているか否かは「ク
ラシックお宅」か否かの踏み絵なのだ。

なぜこんなことになったかというところ、クラシック通を自認
している連中が読む批評誌が二人のことを取り上げない、あ
るいは好意的に書かなかつたからだ。批評家連中は二人のこ
とを「数奇な人生を送った」とか「障害がある」ので話題に
なつただけの人と片づけ、「本来なら批評の対象にならない」
としたのだろうか。

これはおかしい。二人のCDを聴き、演奏会に足を運んだ
人はすでに何十万人。片や批評誌の発行部数から推し量るに
評論を読む人は多くて数万人。評論家は彼ら一念凝り固まつ
た連中のためにだけ書いていなければならないのか。いいと思つたら
転向せずに続けてほしい。エラそうな表現で批判したからに

1	浅墓弘和
2	渡辺下頭彦
3	武田迷倫
4	濱栗滋養

本誌独自調査・転向ま
たは転向予備軍評論家

は自信があるに違いない。

「レコード軽術」の読者層の
拡大のためにはそのような批評
誌があつた方がいい。

「レコ軽」が受けたら「ほん
とくに困つたものだ」とおっ
しやるか？

図書券を撃ち取るっ

ここでは銃は撃ち放題！

退職自衛官・警察官
が退職金を出し合って
島を買いました。一同、
いい子ぶっていた現役
時代を忘れ、楽しく
やっています。いっしょ
に楽しく遊びましょう。

セクハラごっここの「フィガロの館」
ナンパし放題の「ドン・ジョバンニの館」
銃撃ち放題の「ウイリアム・テルの館」
隣接カジノでは図書券で大儲け！



オペラシティー・アイランド

お知らせ

雑誌付録など、聞かないCDを処理する事業は順調に拡大し、環境汚染防止の一端をになってきたと自負しております。

弊社茨城工場では、これまでの攪拌槽による方式をバケツによる手作業に置き換えた結果、驚異的に効率が上がることを発見しました。

その結果大きな工場はもはや不要になり、閉鎖することになりました。跡地利用のアイデアを募集します。



CD引換券

不要なCD 5枚と本券でご希望のCD1枚と交換します
オントモグループ オントモ燃処理株式会社

有効期限2000.4.1

いつしか音楽は「乾杯の歌」に...

「レコ軽」発祥の地「グレル」



〒167-0054
杉並区松陰3-37-21
TEL03(3334)4161

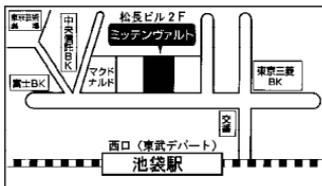
今月のメニュー

エリック・サケイおつまみ集 から

夜更けへの小さい前菜
人の話の腰を折ったり
メルルーサのわな

CD高価買取 MITTENWALD

4月1日：店主の選ぶ20世紀のトンデモ盤100オークション



クラシックCD専門・ミッテンヴァルト

〒177-0021

東京都豊島区西池袋1-19-6松長ビル2F

TEL 03(5957)1512 FAX 03(5957)1513

P M 12:00 ~ P M 9:00 年中無休 <http://www.jah.ne.jp/> violin

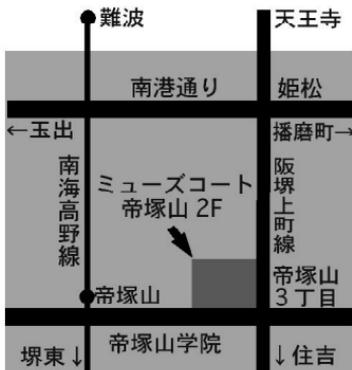
静謐、月の光。音楽。

BAR

大鴉 《お、がらす》

バッハを聴きながらスコッチを、
モーツァルトに浸りながらワインを.....

喧噪を離れて、クラシック音楽を
ゆっくりお楽しみいただけます。



大阪市住吉区帝塚山中 3-7-7ミュージックコート帝塚山 TEL06-6672-8777

編集後記

「レコード軽術」のホームページ <http://www.ask.ne.jp/yanagawa>をごらんになった方はご存じかと思いますが、本誌を続けるにあたって大きな励みになったのは砂川しげひさ氏との出会いでした。

その砂川さんが「コテン・スペシャル」を寄稿して下さいました。うれしい限りです。常連筆者のかずみさんからは月評「管弦楽」の原稿とDVDの広告の案をいただきました。

バック・ナンバーのハイライトは上記ホームページで見ることができます。

レコード軽術 '00年4月号（通巻第25号）

2000.4.1 第1刷発行

2000.4.3 第2刷発行

編集発行人 柳川誠介

〒195-0054 町田市三輪町539-119

TEL&FAX (044) 989-8510

yanagawa@ask.ne.jp

PDF01426@nifty.ne.jp（パブロ小川）

印刷・製本 家内工業

TEL (044) 987-7641

JAD02016@nifty.ne.jp

